オールコット『四人の少女』

『若草物語』として親しまれる四人姉妹の物語は、作者ルイザ・メイ・オールコット（1832-1888）が体験した家族の出来事をもとに書いた小説です。寿岳しづは、この作品を『四人の少女』というタイトルで翻訳しました。

ルイザの父は、豊かさを金銭に求めず節制と信仰を大切にする人物で、そのため一家はいつも貧しく、ルイザは家族の生活を楽にするためには自立しなくてはならないと考えるようになりました。そこでルイザは、ちいさな物語や小説、詩、新聞記事にいたるまで大いにペンを振るい、生活を支えました。

当時、南北戦争直後のアメリカは、子どもの教育が見直された時代でもあり、子どものための遊具や雑誌の売れ行きが急激に伸びていました。このような時代のなかでルイザが書いた『四人の少女』（*Little Women,* 1868.）は、多くの子どもや親たちに歓迎されてたちまちベストセラーになりました。作品のなかでは、ルイザは作家を志望する次女ジョウとして登場します。

『四人の少女』は、まるでしづ自身の成長と自立の物語でもあるかのように、ルイザやジョウとしづの姿とが重なります。しづは日本の若い人たちにも、この『四人の少女』たちのように自己の道を立派に生き抜いていくことを願ってやみませんでした。『四人の少女』は“ルイザ・メイ・オールコット版『朝』”　であるといえるのではないでしょうか。

ルイザ・メイ・オールコット

オールコット著 寿岳しづ訳『四人の少女』
岩波書店 1947 年